



共に歩んだ50年 ^{マサノリ} 吉村奨憲さん 79才 佐川町加茂

1969（昭和44）年に2本のレールを敷いた。50年の歳月が流れた。苦しみ楽しみをわかちあいながらの50年、仲の良い日々ばかりではなく、近よらず離れすぎずけんかもたびたびしながらも、廃線にすることなく2本のレールは今もかわりなくつづいている。この間に一姫二太郎を授かり、貧乏しながらも笑顔たやさず妻は頑張ってくれた。

三十有余年にわたりメシを食べさせていただいた会社、爪に火をともしつつ2人の子どもに高等教育を身につけさせてくれた妻、ただただ感謝しかありません。

これからやっと落ち着いて孫たちの成長を・・・という矢先、妻に脳出血の病魔。おっかけるように、1週間に3回（1回4時間）の透析の試練・・・。元気で明るい人を引きつける魅力ある性格とのギャップがあまりに大きすぎ、とまどう日々である。

透析は机上論としては理解していたが、本人の日々のつらさははかり知ることにはできない。のこされた命のかぎり「杖」となり「足」となり妻の苦勞に報いたい。

余生を第2章と位置づけ79年間歩んできた道を反省しつつ、何かおかえしできればと・・・。心から妻に感謝状を送りたい。ありがとう！ ※高知新聞 声ひろば 令和2年11月13日版より転載



上の文章は佐川町加茂本村にお住いの吉村奨憲さんが高知新聞の声ひろばに投稿され実際に掲載されたものです。毎夕、加茂小学校の校門の前に立たれ、子ども達を見守って下さっている吉村さんに、熱い想いをうかがってきました。

子ども達の声の聞こえと元気になりますね！一日の始まりと終わりは子どもの声を聞いて・・・。今年はハロウィンをいろいろ考えてみたけど、このご時世でやっぱり難しかったですねえ。クリスマスにはまたなんかできたらな～と考えてます。

僕が一年早く退職したのが平成7年。それから6年ぐらい能津のゴルフ場へ、その後はゴルフ場での経験が買われてスポーツパーク佐川のグラウンドの芝生の管理を任されて16年、そして今は完全にフリーになって挨拶運動やらせてもろうてます。孫がお世話になった縁もあって朝は佐川中学校のゲートの外で旗を持って、それから夕方は加茂小学校の佐川側の坂道の下で、『お宝発見パトロール』というゼッケンをつけて立ってます。

仕事をしよった時は気持ちはあってもなかなか時間がなくてねえ。でも近所の前田三紀さんに声をかけていただいて、「是非やらしてちょうだいや！」ということになってねえ。まあでも、そもそも自分がそんな挨拶がで

きる子どもじゃなかったから、子ども達に頭ごなしには言えんので自分から率先してやる姿勢を見せないかんと思うてねえ。こちらから子どもを喜ばせるんじゃなくて、なんか喜んでもらえるような活動ができたらいいなあと思いつつ、でも結局は子ども達から元気をもらってます。

今はね、家内から教えてくれるんですよ、「お父さん、もう挨拶行く時間ですよ～」ってね・・・。いやあ～、この歳になって振り返るとね、自分は本当にやりたい事をやらせてもろうちゅうんですよ。龍馬のフルマラソンから北海道は佐呂間の100kmマラソン、もっと言うたらゴルフ場に勤めゆう時は往復20kmの通勤ランを試してみたりとかね(笑) でもそれらが出来たのは本当に家内のお陰です。家内に力貰って今までやらせてもろうたから、とにかく今自分が少しでも元気をお返ししたいと思うてね。

正直、自分は棺桶入った時が頂点やと思ひゆうんです。そうするとやっぱり頂点までは頑張らないかん。一日一生懸命頑張って夜床に入って、もし明日目が覚めたら、また頑張ろう！そんなふうにしてきてねえ。今が一番充実しちゅうかもしれませぬ。(文：令和2年11月18日 加茂本村の御自宅にて)